

音響環境研究室

清田直子

総合科学部・人間社会学科・2年次生

マルチメディアA棟（総合科学部2号館A棟）の2階に、ピアノとパソコンの並んだ部屋があります。一見、何の関係も無いように見えるものの二つのものが、音響環境研究室には無くてはならない物です。

森先生率いる私たち音響環境研究室のメンバー11人は、マルチメディア情報発信、音響環境、楽器の音響などについて、各自がテーマを決め、研究に取り組んでいます。マルチメディアコースの学生はまだ2年生ですが、研究室への配属がすぐに決まるので、すぐに専門分野の勉強ができます。

マルチメディア情報発信では、情報をインターネット上で効率良く配信する具体的な方法について研究しています。実例を通じて学ぶことをモットーとし、地方自治体や市民団体、NPO法人などの共同研究は、学生が個々のプロジェクトリーダーとなって進めてゆきます。もうひとつの大きな柱が音響で

す。日々の生活の中に音は溢れています。人の話し声、車の音、そして音楽。それら全てが研究対象となります。工学的なアプローチだけではなく感性面からの研究を重視し、良い音環境を具体的にデザインすることを目的としています。

現在進行中のプロジェクトの例として、上勝自然体験学習研究会の活動内容の配信があります。同研究会は、徳島県上勝町における自然体験学習の企画・開催・運営等を行っている市民団体で、「やまびこポイント」の調査などを通じ活動しています。私達はその活動のネット配信とマルチメディア・データベース化を担当するほか、音響面でのバックアップを行っています。

この研究室のボスである森先生はとにかく多才です。うちの研究室のテーマは、上記のように音響とマルチメディア情報発信ですが、森先生はこの二つの分野に精通している上に、それらを融合させた「音響環境

研究」という新しい分野の研究に打ち込んでいます。音響環境学の研究では、情報を自由自在にあやつるコンピュータのスキルと、豊かな感性をもつ芸術家としての一面が研究者に求められます。森先生はこの二つの側面を見事にあわせ持っています。情報工学がご専門なので拾った部品で簡単にサーバを組み立てたり、研究に利用するソフトウェアがあつという間に作られたり、そうかと思えば、授業中にバイオリンを演奏されてみたり、お酒を飲んで機嫌が良くなるとピアノを弾いてくださったりもします。

音が狂ってくると調律もしてしまいます。（音響環境に直接関わっているようにとは思えないのですが、）何か数学の教員免許をお持ちです。ドイツに長く滞在されていたので、ドイツ語が話せます。もうこうなると何が本職か分かりません。

森先生が言うには、興味を持った事しかやらないので、少しもシンドくないそうです。その言葉は授業やゼミでの森先生を見ている

と良く分かります。難しいコンピュータ言語を前にして「おもしろい」という先生の話を聞いているうちに、私たちも、どんどん「パソコンいじり」が好きになっていきます。森先生のお茶目な面について知りたい方は、いつでも遊びに来てください。ちょっとここでは書けませんが、

現代の情報化社会で、生活を便利で心地良く、豊かなものにするために、森研一同は日夜努力しています。（つて、ほんとかなぁ？）

